

水戸市の移住・定住促進の まちづくりについて

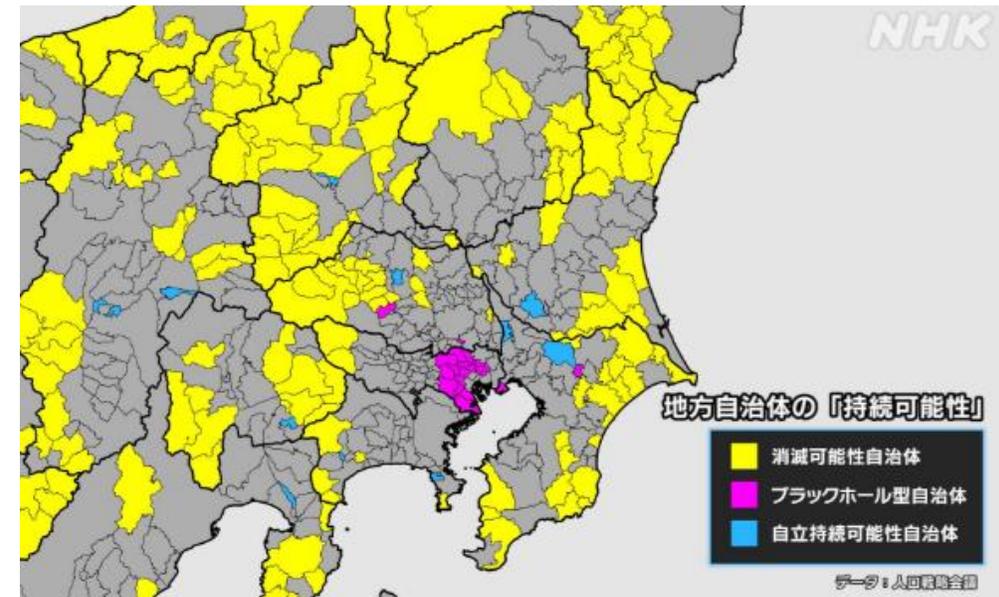


1 人口減少の影響



2024年4月24日、有識者グループ「人口戦略会議」が、国立社会保障・人口問題研究所の推計をもとに20代から30代の女性の数、「若年女性人口」の減少率を市区町村ごとに分析した結果を公表

2050年までの30年間で、若年女性人口が半数以下になる自治体は全体の4割にあたる744あり、これらの自治体は、その後、人口が急減し、最終的に消滅する可能性があるとしている。



1 人口減少の影響



人口減少が地方のまち・生活に与える影響（資料：国土交通白書2015）

- ①生活関連サービス（小売・飲食・娯楽・医療機関等）の縮小
→地域から産業の撤退が進み，生活に必要な商品やサービスを手に入れることが困難になるなど
- ②税収減（+高齢化の進行による社会保障費増）による行政サービス水準の低下
→地方財政はますます厳しさを増し，行政サービスの廃止又は有料化等により，生活利便性が低下する
- ③地域公共交通の撤退・縮小
→不採算路線からの撤退や運行回数の減小が予想される
- ④空き家，空き店舗，工場跡地，耕作放棄地等の増加
→地域の景観の悪化，治安の悪化，倒壊や火災発生といった防災上の問題等が発生し，地域の魅力が低下する
- ⑤地域コミュニティの機能低下
→共助機能の低下，地域防災力の低下，住民同士の交流機会の減小によるにぎわいや地域への愛着の喪失



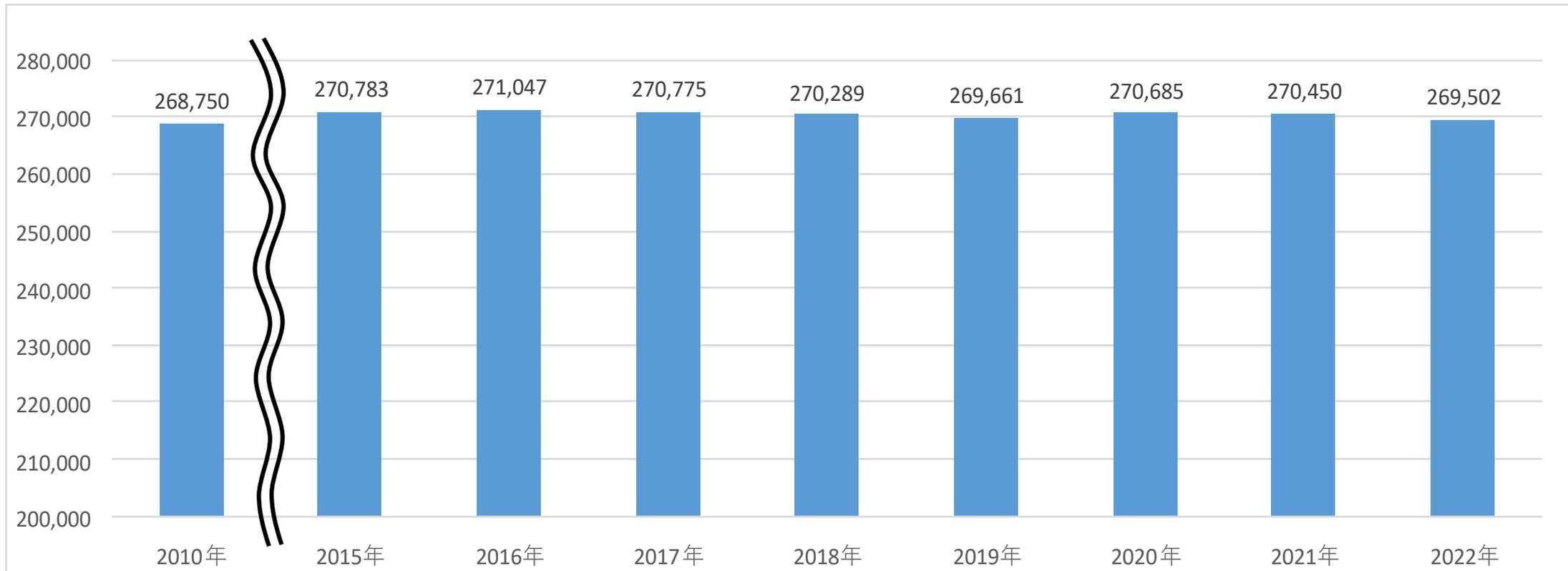
さらなる人口減少を引き起こす人口減少の悪循環

3 水戸市における人口の現状



1 水戸市の人口動態について (1) 総人口の推移

単位：（人）



（各年10月1日現在）

（資料：水戸市統計年報から政策企画課にて作成）

※2010年，2015年，2020年は国勢調査人口，その他は国勢調査の確定値に基づく常住人口

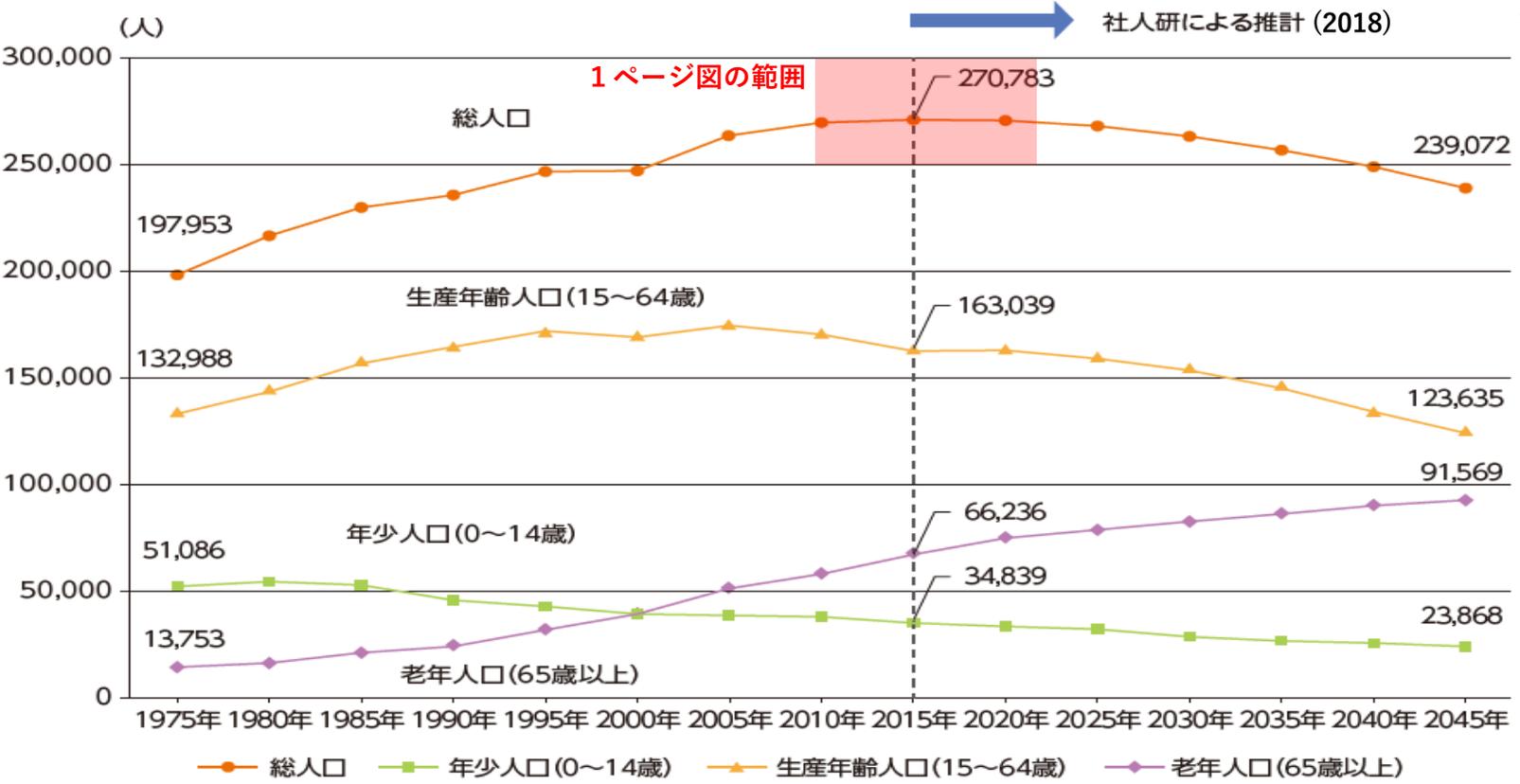


近年は基本的に横ばいが続いている。

3 水戸市における人口の現状



(2) 総人口及び年齢3区分別人口の推移と将来推計



※1975年から2015年までの総人口は、年齢不詳を含む
 (資料: 「水戸市人口ビジョン (第2次)」)

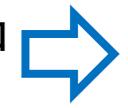
社人研による推計(2018) 社人研による推計(2023)

総人口
243,760人



【総人口】
2015年頃をピークに減少を続け、
2050年には約10%減の推計

生産年齢人口
129,240人



【生産年齢人口】
2005年頃をピークに減少を続け、
2015年頃と比較し、2050年には
約21%減の推計

老年人口
89,145人
年少人口
25,375人



【年少人口・老年人口】
年少人口は減少傾向、老年人口
は増加傾向にあり、2000年頃には
既に年少人口は老年人口を下
回っている

2050年



出生数は下がり、死亡数は増えていく

➡ 近年の総人口は横ばいが続いているが、今後、出生・死亡に伴う

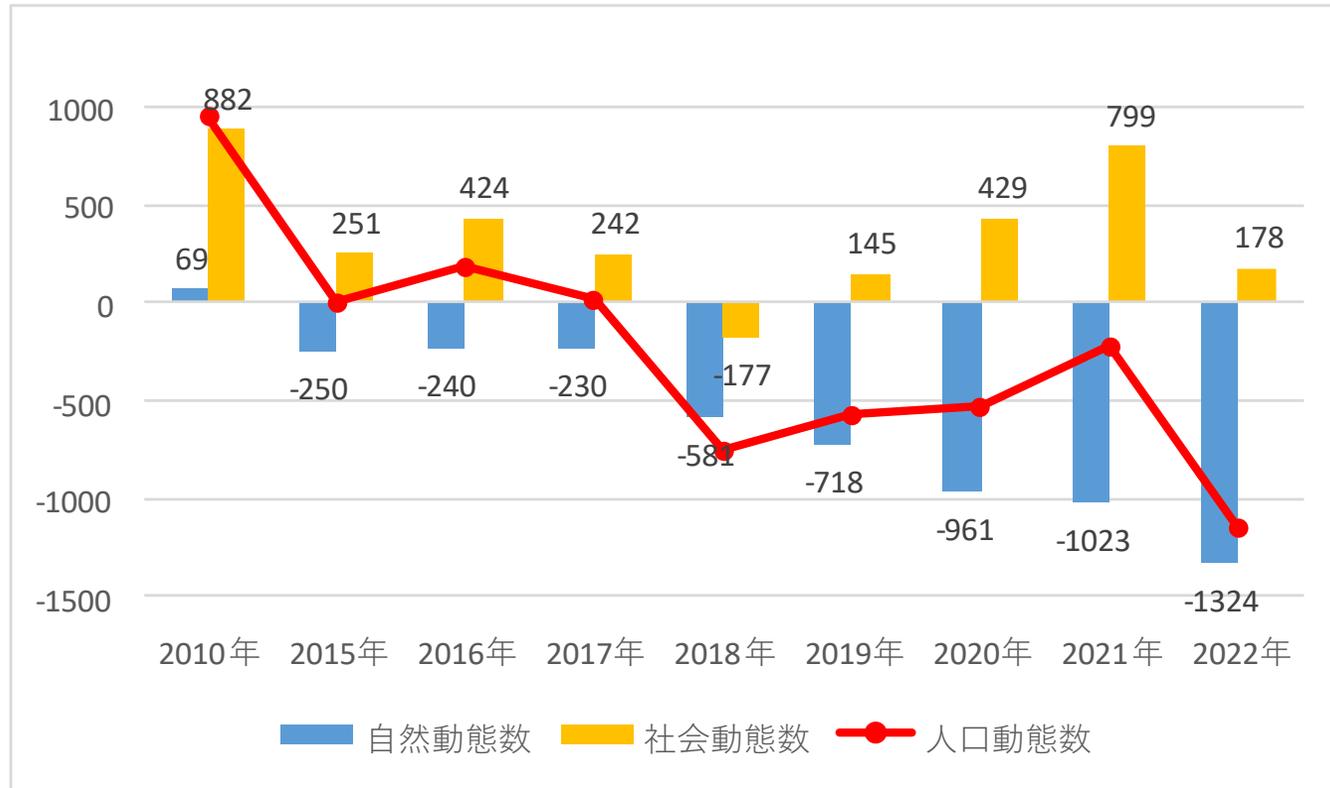
人口動態である「自然動態」はマイナスとなっていくと予想される。

3 水戸市における人口の現状



(3) 人口増減数の推移

単位：(人)



自然動態・・・出生・死亡に伴う人口の動き
 社会動態・・・転入・転出に伴う人口の動き

⇒ 水戸市では既に自然動態による人口の減少の傾向が始まっており、それを転入超過である社会動態でカバーしている状態。
 転出者に対し転入者が減少した年には人口が大きく減少する状況となっている。



人口流入の促進及び人口流出の抑制を図る

「移住・定住促進施策」が非常に重要

水戸市第7次総合計画 (R6.4～)
 重点プロジェクト Mission2
 若い世代の移住・定住加速プロジェクト

単位：(人)

	2010年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
自然動態数	69	-250	-240	-230	-581	-718	-961	-1023	-1324
社会動態数	882	251	424	242	-177	145	429	799	178
人口動態数	951	1	184	12	-758	-573	-532	-224	-1146

(資料：水戸市統計年報から政策企画課にて作成)

4 水戸市における転入出の現状



2 水戸市の社会動態について (1) 地域別転入・転出の推移

単位：(人)

	県内			県外			国外			その他			合計		
	転入	転出	転入-転出	転入	転出	転入-転出	転入	転出	転入-転出	転入	転出	転入-転出	転入	転出	転入-転出
2010年	5,742	4,732	1,010	5,608	5,450	158	202	241	-39	750	997	-247	12,302	11,420	882
2015年	5,498	5,142	356	5,316	5,957	-641	0	0	0	1,068	532	536	11,882	11,631	251
2018年	5,290	5,075	215	4,887	5,928	-1,041	1,106	402	704	141	196	-55	11,424	11,601	-177
2019年	5,372	5,035	337	5,154	5,983	-829	1,050	370	680	147	190	-43	11,723	11,578	145
2020年	5,285	4,508	777	4,926	5,718	-792	661	223	438	205	199	6	11,077	10,648	429
2021年	5,193	4,451	742	5,206	5,280	-74	338	225	113	135	117	18	10,872	10,073	799
2022年	5,004	4,738	266	5,025	5,798	-773	1,047	320	727	113	155	-42	11,189	11,011	178

(資料：水戸市統計年報から政策企画課にて作成)



県内は転入超過



県外は転出超過



国外は転入超過

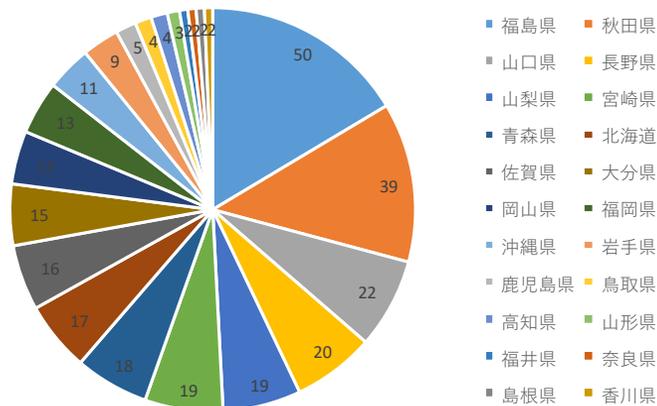
4 水戸市における転入出の現状



(2) 県外における転入超過及び転出超過の内訳

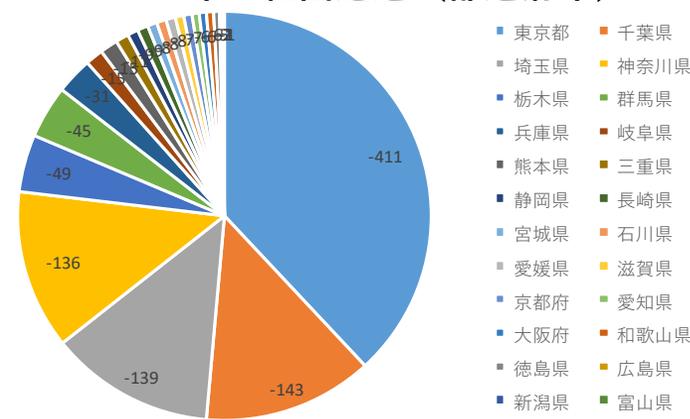
	県外		
	転入	転出	転入-転出
2010年	5,608	5,450	158
2015年	5,316	5,957	-641
2018年	4,887	5,928	-1,041
2019年	5,154	5,983	-829
2020年	4,926	5,718	-792
2021年	5,206	5,280	-74
2022年	5,025	5,798	-773

2022年 転入超過 (都道府県)



上位2県は
東北地方

2022年 転出超過 (都道府県)



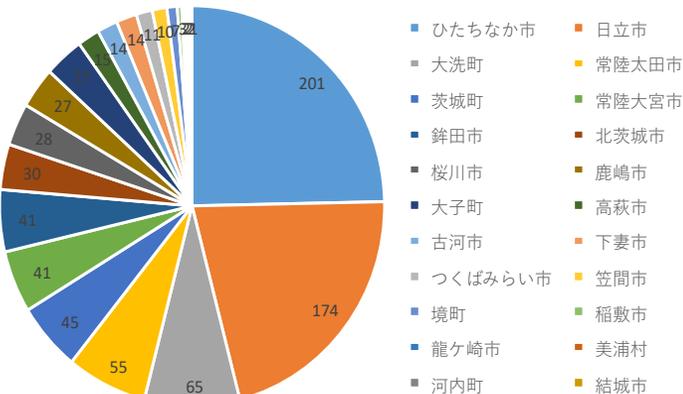
首都圏 (神奈川, 東京, 埼玉, 千葉) が
75%以上を
占める

(資料：水戸市統計年報から政策企画課にて作成)

(3) 県内における転入超過及び転出超過の内訳

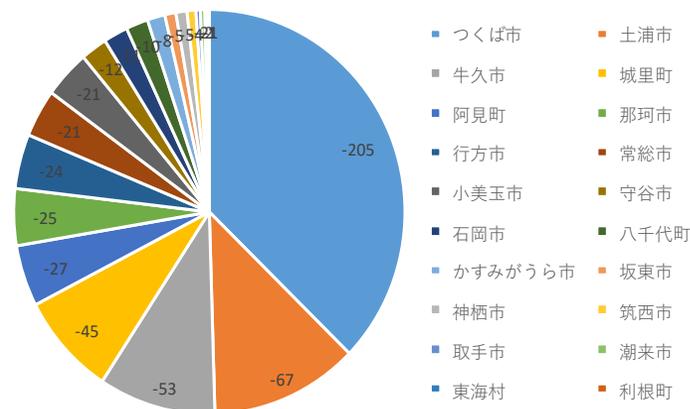
	県内		
	転入	転出	転入-転出
2010年	5,742	4,732	1,010
2015年	5,498	5,142	356
2018年	5,290	5,075	215
2019年	5,372	5,035	337
2020年	5,285	4,508	777
2021年	5,193	4,451	742
2022年	5,004	4,738	266

2022年 転入超過 (県内市町村)



県北・県央
地域が多い
傾向

2022年 転出超過 (県内市町村)



県南地域が
多い傾向

(資料：水戸市統計年報から政策企画課にて作成)

4 水戸市における転入出の現状



(4) 2022の水戸市の転入出超過上位自治体（県内外各3自治体）

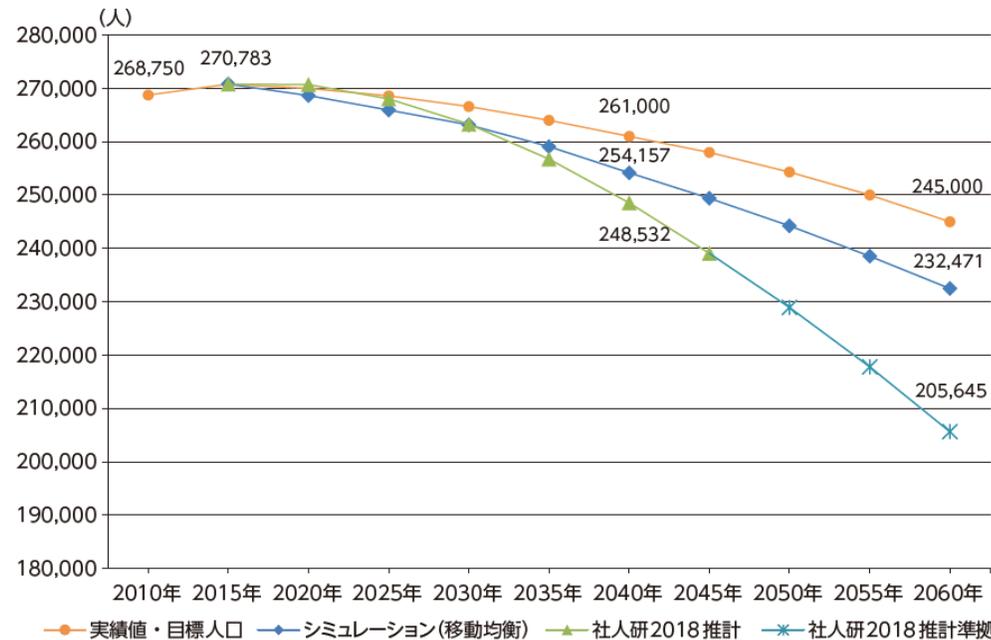
➡ 転入超過上位自治体

➡ 転出超過上位自治体

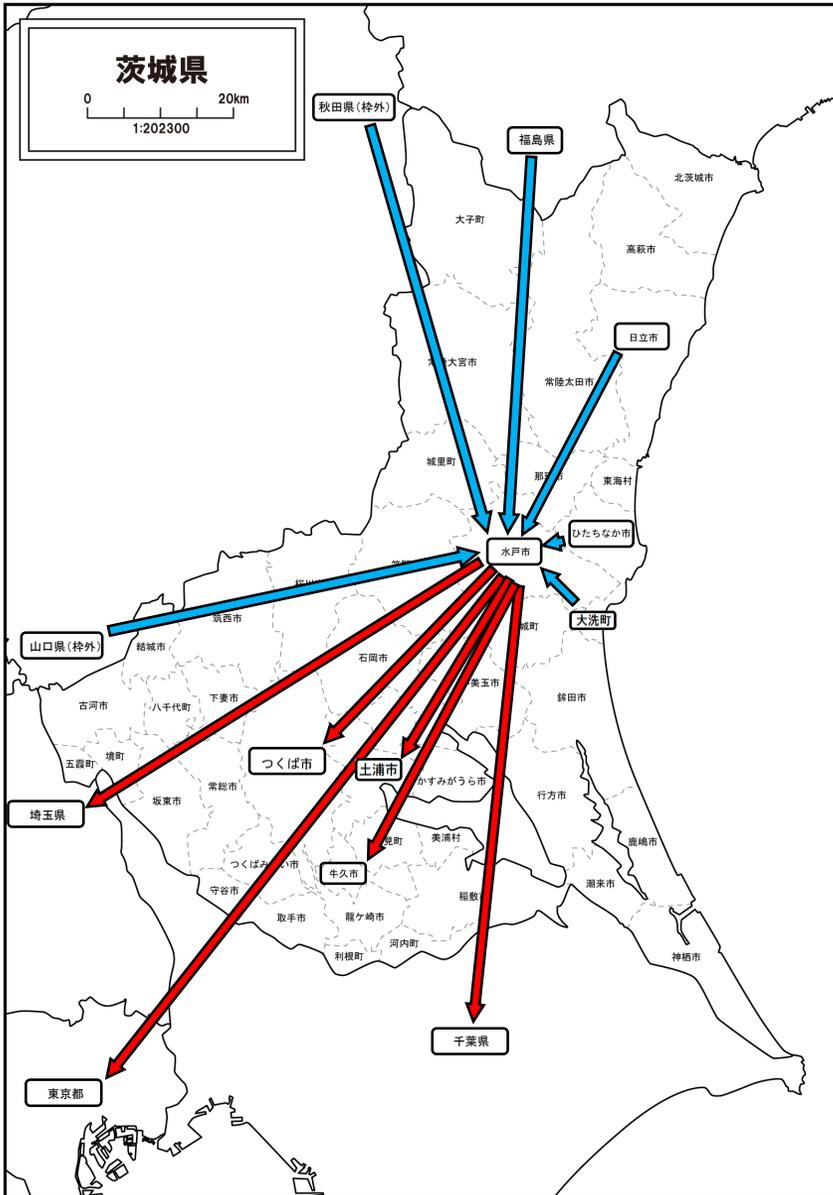
➡ 県内外問わず、水戸市は近隣及び以北から人口が流入し、首都圏方面へと流出している傾向がある。

○目標

「人口減少を抑制し、活力あるまちを維持するため、本市の2060年における目標人口を245,000人と設定」（「水戸市人口ビジョン（第2次）」より）



➡ 活力あるまちを維持するため、推計より高い目標人口の達成に向け、関連施策を展開していく。



5 水戸市における移住・定住促進の考え方



(1) 関連計画

若い世代に選ばれるMITOづくり総合戦略

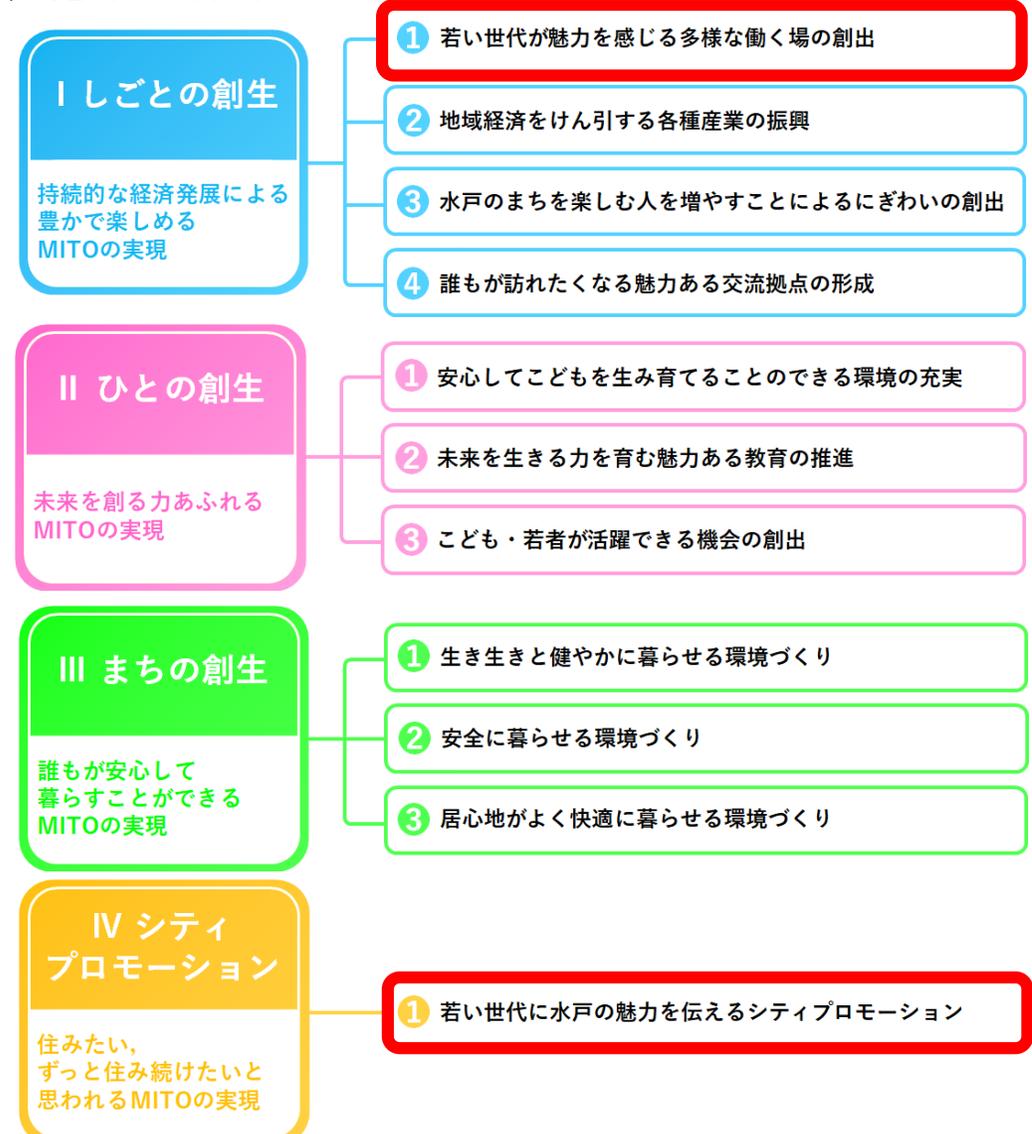
- デジタル×まち・ひと・しごと創生（第3次） -

- ▷水戸市第7次総合計画に則った「移住・定住促進」に向けた個別計画
- ▷計画期間は2024年度～2028年度の5年間
- ▷2024年6月策定（予定）

(2) 総合戦略全体のイメージ



(3) 施策の体系



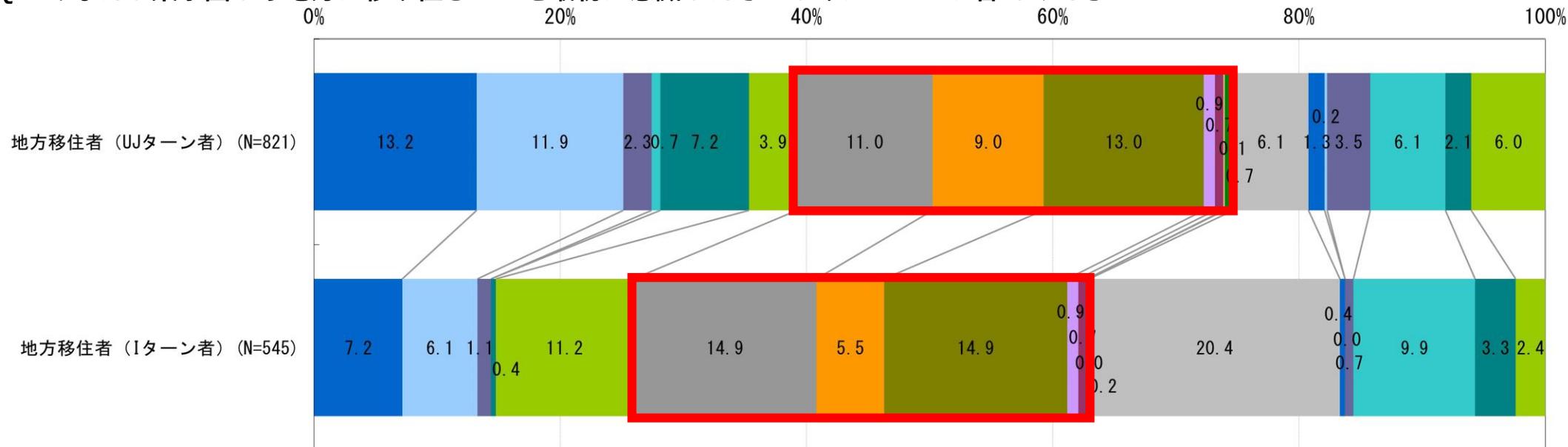
5 水戸市における移住・定住促進の考え方



(4) 「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」の重点化に係るデータ

○地方移住者（UJターン者）の意識調査（2020年度）／内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局

Q：あなたが東京圏から地方に移り住むことを最初に意識したきっかけについてお答えください



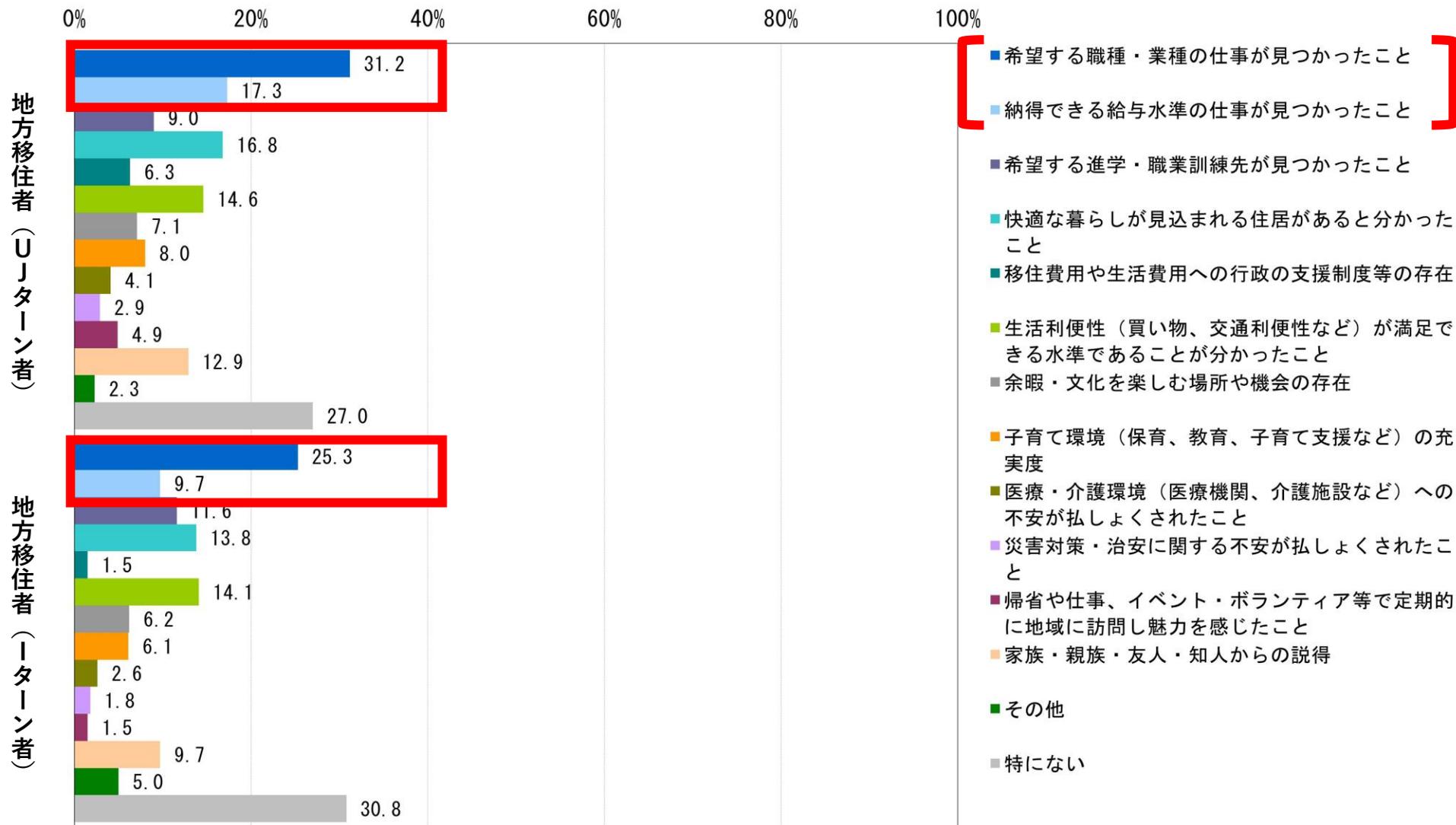
- 将来のライフプランを考えたことがきっかけ
- 現在の生活や仕事に違和感や限界を感じたことがきっかけ
- 旅行がきっかけ
- 地方移住の番組や記事等がきっかけ
- 帰省がきっかけ
- 進学先・職業訓練先の検討がきっかけ
- 就職活動（新卒）がきっかけ
- 転職・求職活動（新卒以外）がきっかけ
- あなた自身の転職がきっかけ
- 昇進等、仕事の成果がきっかけ
- 独立して事業を行いたいと考えたこと（例：起業、フリーランス、芸術・文化関係）がきっかけ
- NPO・NGO等の活動に従事したいと考えたことがきっかけ
- 家業の継承がきっかけ
- 結婚がきっかけ
- 出産がきっかけ
- 子供の成長や独立がきっかけ
- 病気や怪我がきっかけ
- あなた自身の意思に関係のない家庭事情（介護、家族等との同居、家族の転勤・移住）がきっかけ
- その他
- 当初より地方での暮らしを希望していた

5 水戸市における移住・定住促進の考え方



○地方移住者（UJIターン者）の意識調査（2020年度）／内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局

Q：あなたが地方に住むという決断をした際に、影響を与えた要素をすべてお答えください



5 水戸市における移住・定住促進の考え方



○ーあなたと描く水戸の未来ー市民1万人アンケート（2022年度）／水戸市

1-1 水戸市の印象

・評価が下位の項目（27項目中）

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (n=4,978)		都会的な雰囲気がある (-78.3)	商業が盛んで活力を感じる (-57.4)	魅力ある企業が多い (-53.2)	交通機関が発達している (-39.9)	祭りや防災訓練など地域の行事が盛んである (-27.3)
20歳代 (n=400)		都会的な雰囲気がある (-63.9)	商業が盛んで活力を感じる (-38.3)	魅力ある企業が多い (-35.5)	交通機関が発達している (-23.3)	遊ぶところが多く生活を楽しむ (-17.5)
30歳代 (n=590)		都会的な雰囲気がある (-87.6)	商業が盛んで活力を感じる (-51.4)	交通機関が発達している (-47.5)	魅力ある企業が多い (-45.0)	遊ぶところが多く生活を楽しむ (-32.9)
40歳代 (n=643)		都会的な雰囲気がある (-87.0)	商業が盛んで活力を感じる (-60.3)	交通機関が発達している (-50.9)	魅力ある企業が多い (-48.8)	遊ぶところが多く生活を楽しむ (-24.0)

2-3-1 施策の現状に対する満足度

・評価が下位の項目（38項目中）

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (n=4,978)		商業の振興(新たな店舗の開業など) (-20.5)	身近な生活道路の整備(拡幅や舗装, 照明の設置, 歩道の整備など) (-20.3)	雇用対策の充実(就業機会の創出など) (-18.4)	工業の振興(新たな企業の進出など) (-17.3)	観光の振興(観光の増加など) (-16.4)
20歳代 (n=400)		観光の振興(観光客の増加など) (-13.3)	雇用対策の充実(就業機会の創出など) (-5.3)	商業の振興(新たな店舗の開業など) (-4.0)	工業の振興(新たな企業の進出など) (-2.3)	行政への住民意向の反映 (-2.0)
30歳代 (n=590)		商業の振興(新たな店舗の開業など) (-27.2)	身近な生活道路の整備(拡幅や舗装, 照明の設置, 歩道の整備など) (-27.2)	雇用対策の充実(就業機会の創出など) (-26.7)	交通安全の充実 (-25.5)	行政への住民意向の反映 (-23.0)
40歳代 (n=643)		商業の振興(新たな店舗の開業など) (-30.6)	雇用対策の充実(就業機会の創出など) (-28.3)	観光の振興(観光の増加など) (-28.2)	身近な生活道路の整備(拡幅や舗装, 照明の設置, 歩道の整備など) (-27.8)	工業の振興(新たな企業の進出など) (-26.0)

➡ 若い世代が地方に住むきっかけや決断には、仕事の影響が大きい
一方で、若い世代の本市への印象では、仕事に関する印象は薄く、
本市の仕事に関する施策への若い世代の満足度も低い

5 水戸市における移住・定住促進の考え方



(5) 重点的な取組

I-① 若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出

事業名	事業概要
創業・スタートアップ支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 起業者精神を育む創業機運の醸成 創業に関する包括的支援の推進 多様なニーズを踏まえた創業支援拠点の機能強化
中小企業の成長支援	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業の経営革新・経営基盤強化支援 リスクリングやリカレント教育の支援による人材の育成 円滑な事業承継の促進 D X 推進等による企業の生産性向上支援
企業立地の促進	<ul style="list-style-type: none"> 企業誘致活動の推進 サテライトオフィス等誘致活動の推進 新たな誘致先用地の確保
ライフスタイルにあわせた働きやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが働きやすい環境づくり 子育て世帯が安心して働ける環境づくり 女性が活躍できる環境づくり 仕事と介護を両立できる環境づくり

IV-① 若い世代に水戸の魅力を伝えるシティプロモーション

事業名	事業概要
多様な手法によるプロモーションの推進	<ul style="list-style-type: none"> 様々なメディアを活用したシビックプライドを高める行政情報の発信 ターゲットにあわせて魅せ方を変える戦略的プロモーションの展開 みとアンバサダーなど、個人の発信力を生かしたプロモーションの展開 フィルムコミッションの充実によるプロモーションの展開 若い世代に届く、時代の変化を捉えた新たなプロモーションの展開 若い世代を呼び込めるイベントの展開
移住を後押しする施策の充実	<ul style="list-style-type: none"> 二地域居住など、一人一人が望むライフスタイルに応じた情報発信 一人一人に寄り添った移住相談体制の充実 水戸の暮らしを体感する移住体験の推進 地域おこし協力隊制度の活用 移住に係る負担の軽減
若い世代のみとリターンの促進強化	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代が水戸とつながり続けるプラットフォームの構築 市内外の若い世代に向けた魅力ある働く場のPR



県内の企業が集まる
チャレンジいばらき就職フェア



水戸の暮らしを体感する
移住体験事業



いばらき県央地域移住・定住促進協議会

- ▷ 令和4年5月31日 発足
- ▷ 各市町村における移住・定住戦略とは別に、構成市町村間で情報を共有しつつ、県央地域全体の移住・定住促進を図る事業を展開

令和5年度の主な取組

ふるさとワーキングホリデー

- ▷ 関東初の取組（離島は除く）
- ▷ 働きながら暮らす2週間の移住体験
- ▷ 参加者によるPR

移住フェアへの共同出展

- ▷ 都内大型移住フェアへ出展
- ▷ 移住相談者数：50組69名
- ▷ VR移住体験ツアー：33名
- ▷ 移住AIマッチング：14組



圏域の魅力・PRコンセプトの整理

- ▷ 「シームレスな一体の生活圈」
- ▷ パンフレット制作
- ▷ HP「#いばらきどまんなかライフ」の強化



ご清聴ありがとうございました

まちといなか、いいとこどりのライフスタイルで
あなただけの水戸暮らしを実現しよう!

